

◆ 今週のコメント

- ・ **新型コロナウイルス感染症**の報告が694例(男性385例(10歳代33例, 20歳代132例, 30歳代96例, 40歳代58例, 50歳代45例, 60歳代12例, 70歳代3例, 80歳代2例, 年齢非公開4例), 女性295例(10歳代49例, 20歳代106例, 30歳代59例, 40歳代38例, 50歳代27例, 60歳代10例, 70歳代1例, 80歳代2例, 年齢非公開3例), 性別及び年齢非公開14例)あり, 本年の累積報告数は9,377例になりました。
本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- ・ **レジオネラ症(肺炎型)**の報告が1例(80歳代女性)ありました。症状は発熱, 肺炎で, 感染地域は国内です。本年の累積報告数は15例となりました。
- ・ **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**の報告が1例(80歳代女性)ありました。本年の累積報告数は22例となりました。
- ・ **梅毒**の報告が2例(50歳代男性及び30歳代女性)(第27週追加報告分含む)ありました。いずれも感染地域は国内, 感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は38例となりました。
梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け, コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見, 早期治療が非常に重要です。
- ・ **RSウイルス感染症**の定点当たり報告数は2.19で, 前週の2.47から減少しました。全国でも今週4.03(前週4.64)で減少しました。しかしながら, 例年と比較すると依然として多い状態が続いています。
- ・ **RSウイルス感染症を除く小児科定点把握感染症**の推移は, 前週までと大きな変化はなく, 京都市で流行の兆候の見られる感染症はありません。

◆ 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

京都市の腸管出血性大腸菌感染症は, 第20週ごろから患者の報告数が増え始め, 本年の年間累積報告数は14例となりました。例年夏季に報告数が増加しており, 今後の発生動向に注意が必要です。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 5例(肺結核 4例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 1例)
【1月以降の累積報告数 141例(肺結核 51例, その他結核 39例, 潜在性結核感染者 51例)うち喀痰塗抹陽性 21例】
- ・ **新型コロナウイルス感染症 694例**【1月以降の累積報告数9,377例】
- ・ 四類:レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 15例】
- ・ 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 22例】
- ・ 五類:梅毒 2例【1月以降の累積報告数 38例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

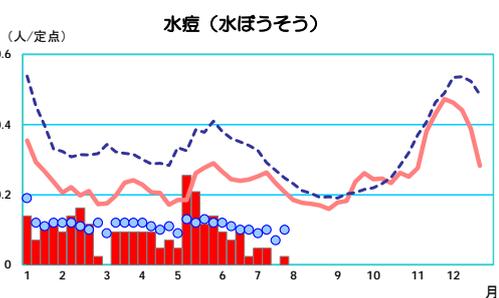
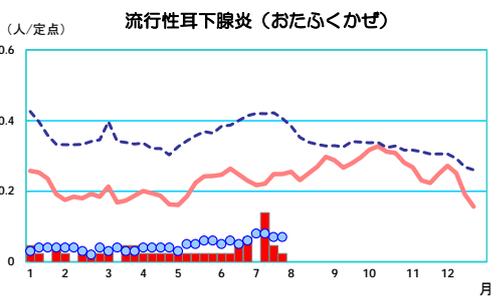
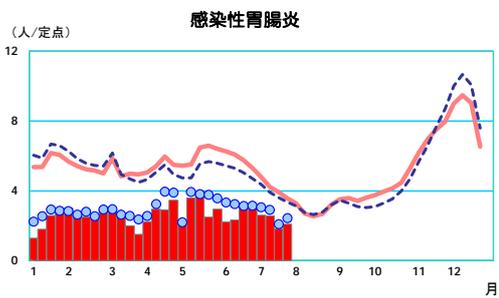
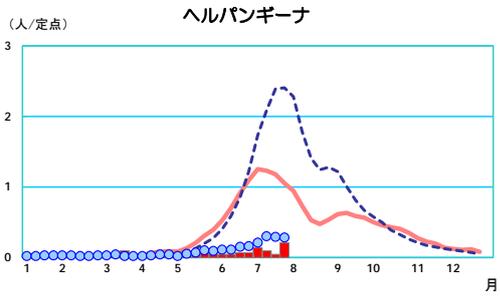
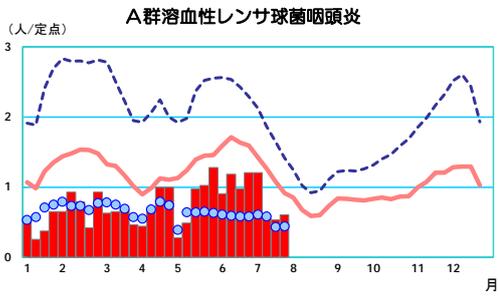
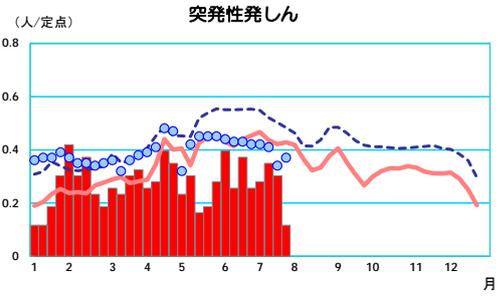
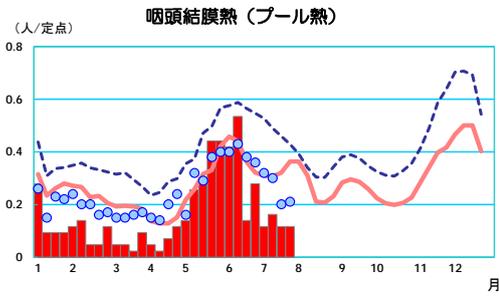
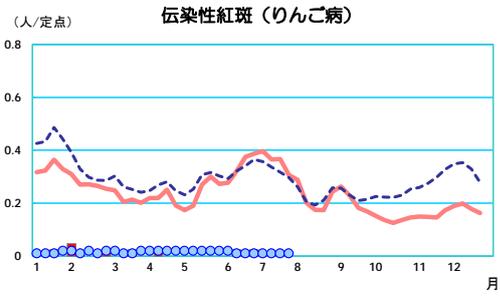
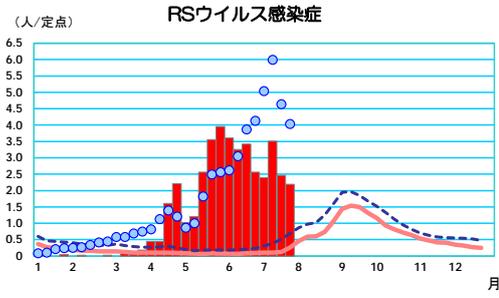
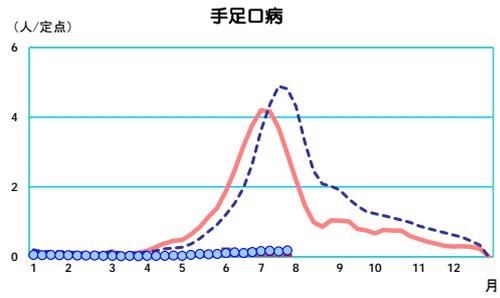
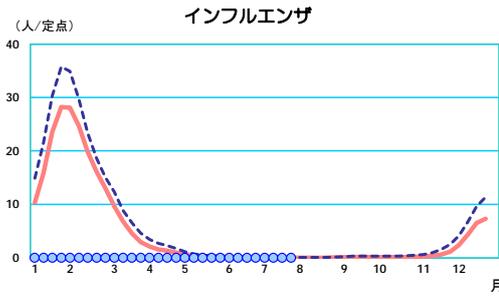
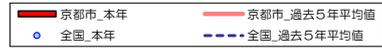
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① RSウイルス感染症	2.19	94
	② 感染性胃腸炎	2.09	90
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.60	26
	④ ヘルパンギーナ	0.21	9
	⑤ 咽頭結膜熱	0.12	5
	⑤ 突発性発しん	0.12	5
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

【次ページ以降の主な内容】

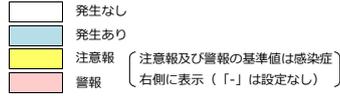
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注)京都市のデータは, 2021年8月4日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
※ 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

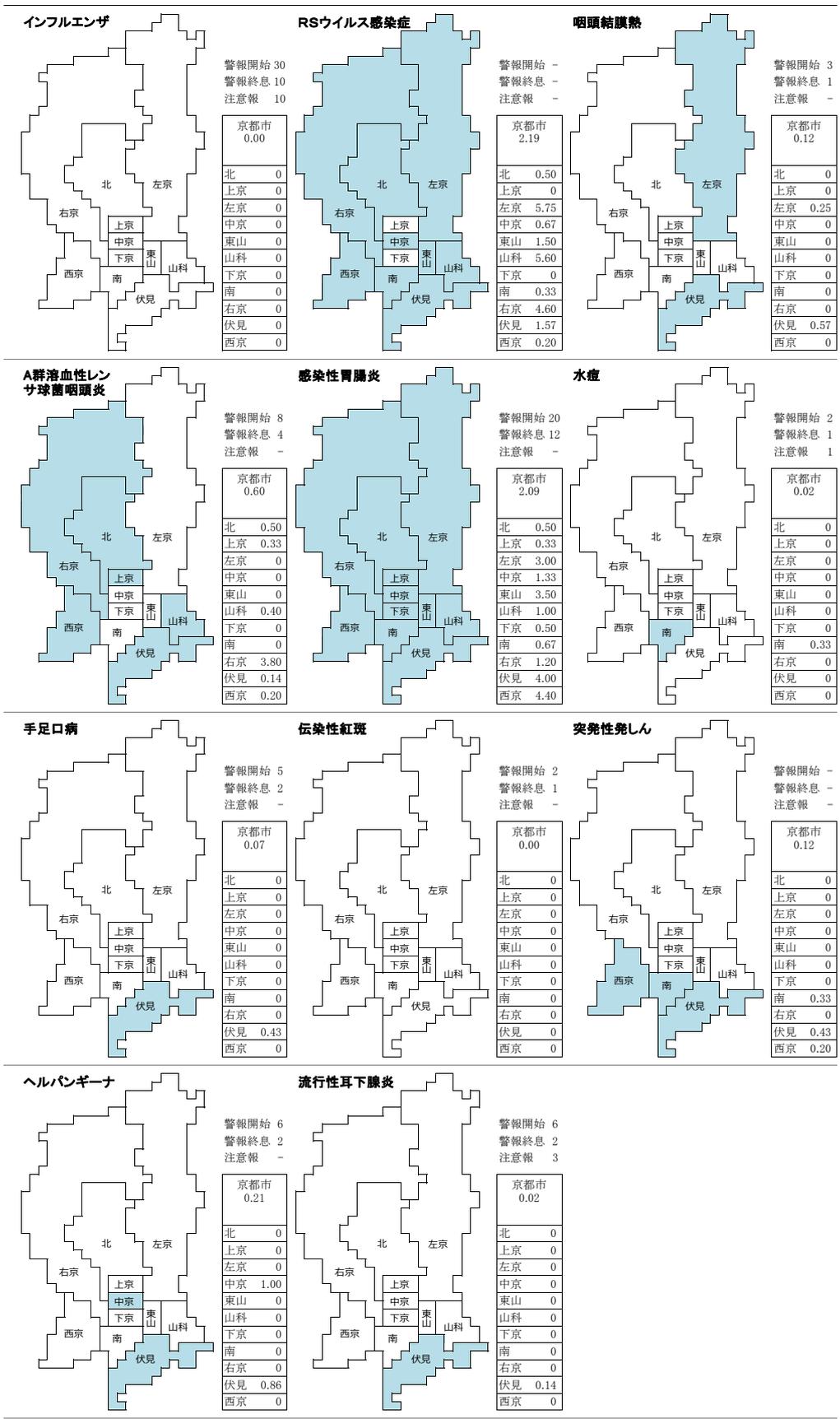
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2021年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2021年第30週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
 したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や
 「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。」



第30週(7月26日～8月1日)トピックス: <腸管出血性大腸菌感染症>

京都市の腸管出血性大腸菌感染症は、第20週ごろから患者の報告数が増え始め、本年の年間累積報告数は14例となりました。全国の報告数も、第20週ごろから増減を繰り返しながら増加傾向となっています。本市と全国の過去5年平均値の発生状況を見ても、夏季に報告数が増加しており、今後の発生動向に注意が必要です(図1)。

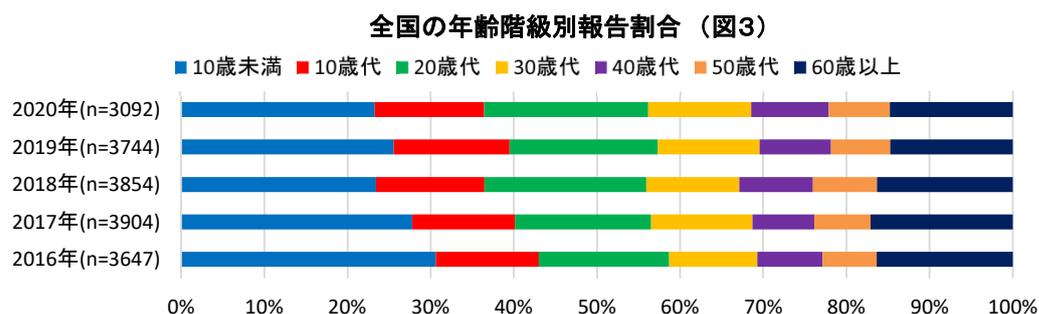
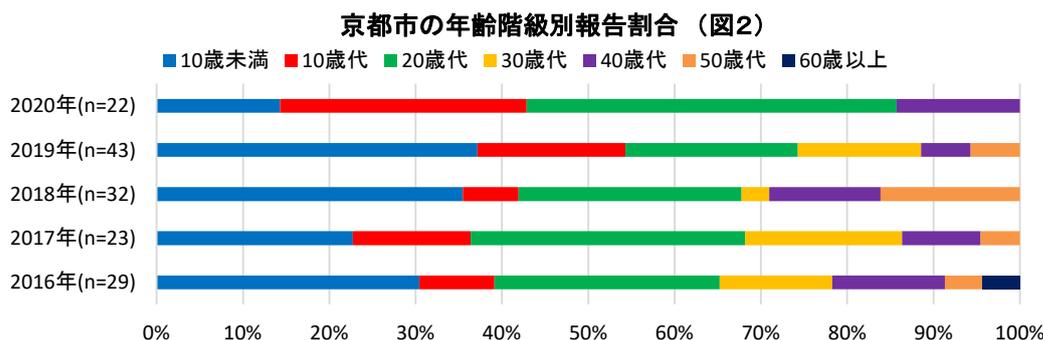
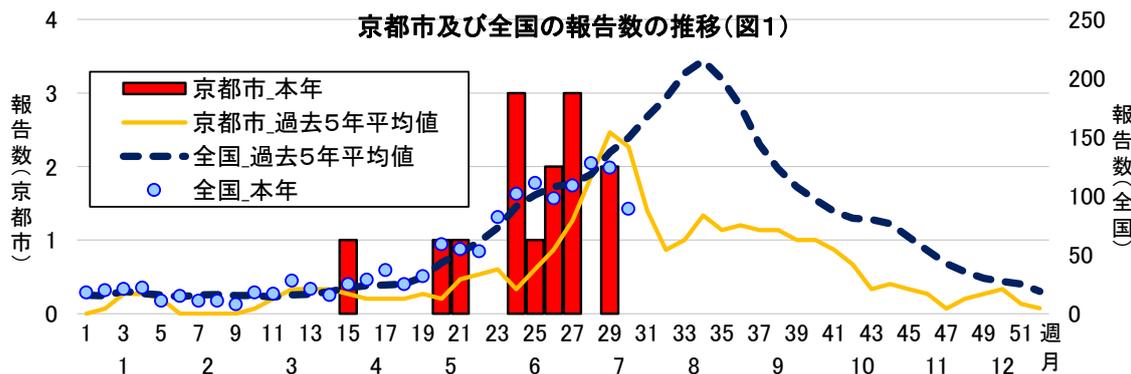
本感染症の感染経路は、O157をはじめとするペロ毒素産生性の腸管出血性大腸菌(Enterohemorrhagic *Escherichia coli*; EHEC)の経口感染であり、EHECに汚染された食物の摂取と、患者や保菌者の便からの二次感染があります。症状は、平均3～5日の潜伏期間のあと、激しい腹痛、水様性下痢及び血便を特徴とします。嘔吐や発熱を伴うこともあります。さらに、EHECが産生するペロ毒素により、溶血性貧血、急性腎不全、血小板減少を主徴とする溶血性尿毒症症候群(Hemolytic Uremic Syndrome, HUS)を引き起こすことがあり、小児や高齢者では、尿毒症のために痙攣、昏睡、脳症などによって致命症となることがあります。

本市で報告された患者の過去5年の年齢階級別報告割合を見ると、どの年も20歳代以下の若年層が60%以上を占めており、中でもHUSを発症しやすいとされる10歳未満の子どもの割合は、多少ばらつきはあるものの、20～30%と比較的高い水準となっています(図2)。全国の年齢階級別報告割合では、京都市とほぼ同様の割合である上、どの年も10歳未満の比率が他の年代に比べ、最も高くなっています(図3)。

感染予防として、生肉または加熱不十分な食肉等の喫食をさける、食品の十分な加熱(中心部75℃・1分以上)、焼肉やバーベキューをする際は生肉を扱う箸と食べる箸を区別する、食品を扱う際の手洗い励行を徹底しましょう。10歳未満の感染を防ぐためには、周囲の大人の感染予防対策も重要です。万一、家族内で感染者が出た場合は、タオルの共用を避け、トイレのドアノブ等の消毒を徹底し、同じお風呂のお湯を使わないようにしましょう。

○「腸管出血性大腸菌Q&A」(厚生労働省ホームページ)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000177609.html>



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第30週

疾病,行政区別報告数

2021年7月26日～2021年8月1日

データ入手日:2021年8月4日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	2	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	2	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	23	1	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	2	-	-	4	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	3	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	28	-	2	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	1	-	-	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	23	-	19	6	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-
伏見	-	11	4	1	28	-	3	-	3	6	1	-	1	-	-	-	-	-
西京	-	1	-	1	22	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	94	5	26	90	1	3	-	5	9	1	-	3	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)
男女合計	-	0.50	-	0.50	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	0.50	-	0.50	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	0.33	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	5.75	0.25	-	3.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	0.67	-	-	1.33	-	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	1.50	-	-	3.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	5.60	-	0.40	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	0.33	-	-	0.67	0.33	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	4.60	-	3.80	1.20	-	-	-	-	-	-	-	2.00	-	-	-	-	-
伏見	-	1.57	0.57	0.14	4.00	-	0.43	-	0.43	0.86	0.14	-	0.50	-	-	-	-	-
西京	-	0.20	-	0.20	4.40	-	-	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	2.19	0.12	0.60	2.09	0.02	0.07	-	0.12	0.21	0.02	-	0.30	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第30週

年齢階級, 疾病別報告数

2021年7月26日～2021年8月1日

データ入手日:2021年8月4日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上							
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	94	11	14	36	7	12	13	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		5	-	1	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		26	-	1	6	3	4	4	1	1	3	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		90	-	6	17	13	10	8	8	3	8	4	3	4	1	5	-	-	-	-	-	-	-
水痘		1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		3	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		5	-	2	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		9	-	-	6	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	2.19	0.26	0.33	0.84	0.16	0.28	0.30	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.12	-	0.02	0.07	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.60	-	0.02	0.14	0.07	0.09	0.09	0.02	0.02	0.07	0.02	-	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		2.09	-	0.14	0.40	0.30	0.23	0.19	0.19	0.07	0.19	0.09	0.07	0.09	0.02	0.12	-	-	-	-	-	-
水痘		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.07	-	-	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.12	-	0.05	-	0.05	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.21	-	-	0.14	0.02	-	0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	0.20	-	-	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2021年第30週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2021年8月4日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	147	110	103	151	106	94
咽頭結膜熱	6	12	5	7	5	5
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	42	52	52	24	23	26
感染性胃腸炎	141	131	112	110	78	90
水痘	4	1	2	2	-	1
手足口病	4	10	2	4	1	3
伝染性紅斑	-	1	-	-	-	-
突発性発しん	16	11	12	15	13	5
ヘルパンギーナ	3	3	6	4	2	9
流行性耳下腺炎	2	3	-	6	2	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	3	-	2	-	3
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	366	337	294	325	230	237

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	3.42	2.56	2.40	3.51	2.47	2.19
咽頭結膜熱	0.14	0.28	0.12	0.16	0.12	0.12
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.98	1.21	1.21	0.56	0.53	0.60
感染性胃腸炎	3.28	3.05	2.60	2.56	1.81	2.09
水痘	0.09	0.02	0.05	0.05	-	0.02
手足口病	0.09	0.23	0.05	0.09	0.02	0.07
伝染性紅斑	-	0.02	-	-	-	-
突発性発しん	0.37	0.26	0.28	0.35	0.30	0.12
ヘルパンギーナ	0.07	0.07	0.14	0.09	0.05	0.21
流行性耳下腺炎	0.05	0.07	-	0.14	0.05	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.10	0.30	-	0.20	-	0.30
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	8.59	8.07	6.84	7.71	5.35	5.74

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。